

特54

32

栗毛  
四





大字五行義本

淨瑠璃ど逸

繪入義本

常盤津統者本

下口淨瑠璃

淨瑠璃大全

今般特別法、低格仕、本、...

右、抄上、昔仕、...

是、中、不、九、...

是、上、方、一、...

右、上、昔、...

此、中、不、九、...

右、上、昔、...

此、中、不、九、...

刑 法片五付 定價廿五錢

治罪法 同 二十支

同字引 同 十支

農家作法用文

十八史畧

四書

五經

春秋左氏傳校本

算法新書

算盤通書

教頭

改正

明治文証大全

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...

此書、先般特別法、...



社界 尼介

町中騒動

大ノ腹

ヤシ馬

シロ馬

胡麻摺

太鼓匠者

螺吹キ

扶杖引



大字五行義考本

浄瑠璃

浄瑠璃

浄瑠璃

浄瑠璃

浄瑠璃

浄瑠璃

浄瑠璃

今般抄刊行... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃... 浄瑠璃...

刑 治罪法

法片... 定價... 治罪法... 治罪法...

農家作法用文

德山純生編著... 此書ハ先般... 農家作法用文...

十八史畧

全七冊... 右ハ... 十八史畧...

四書

後藤... 十冊... 四書...

五經

日... 十一冊... 五經...

春秋左氏傳校本

十五冊... 日... 春秋左氏傳校本...

算法新書

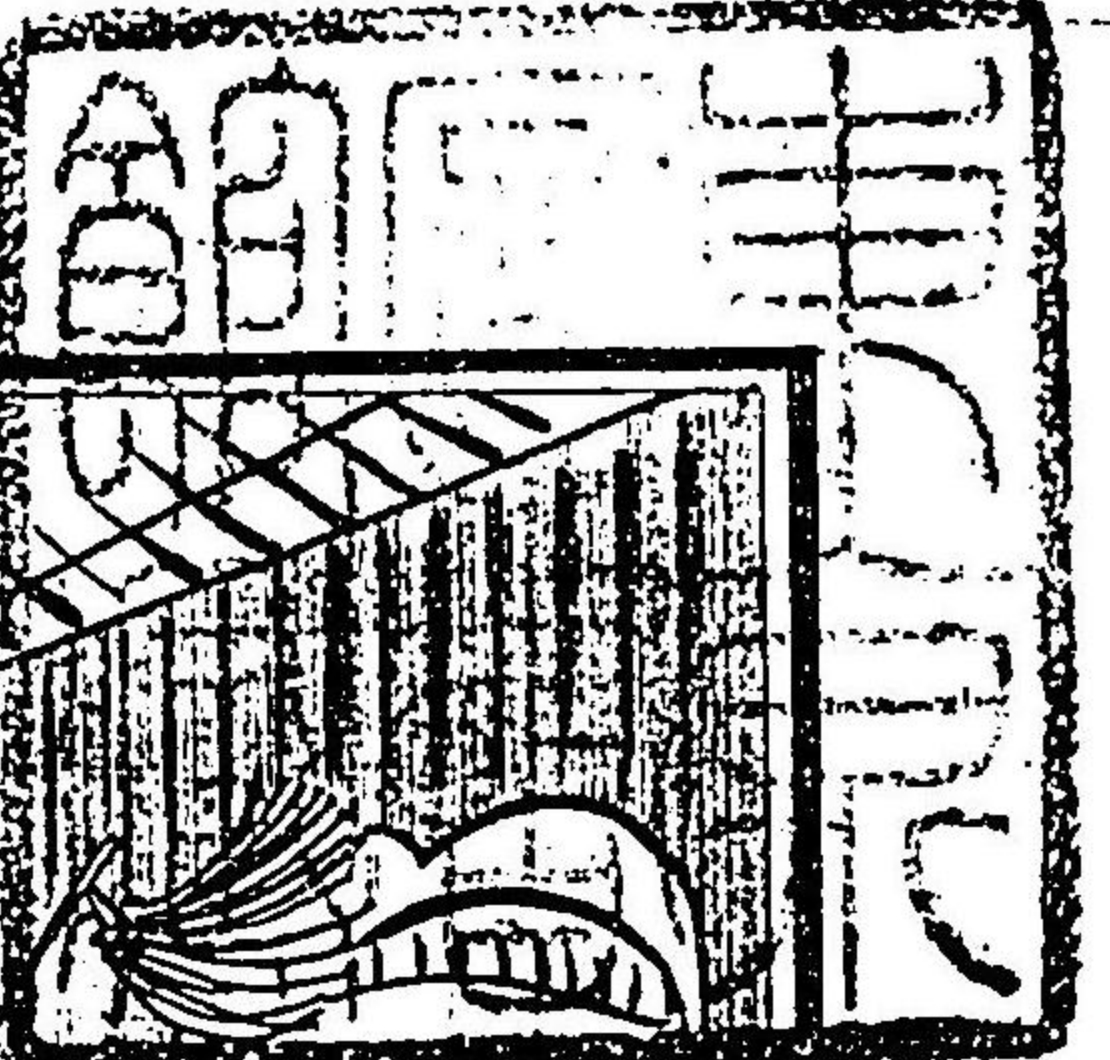
中本... 此書ハ長谷川... 算法新書...

算盤通書

全... 此書ハ... 算盤通書...

教頭

改正 明治文証大全... 此書ハ... 教頭...







大欲無欲

是より善道は身は

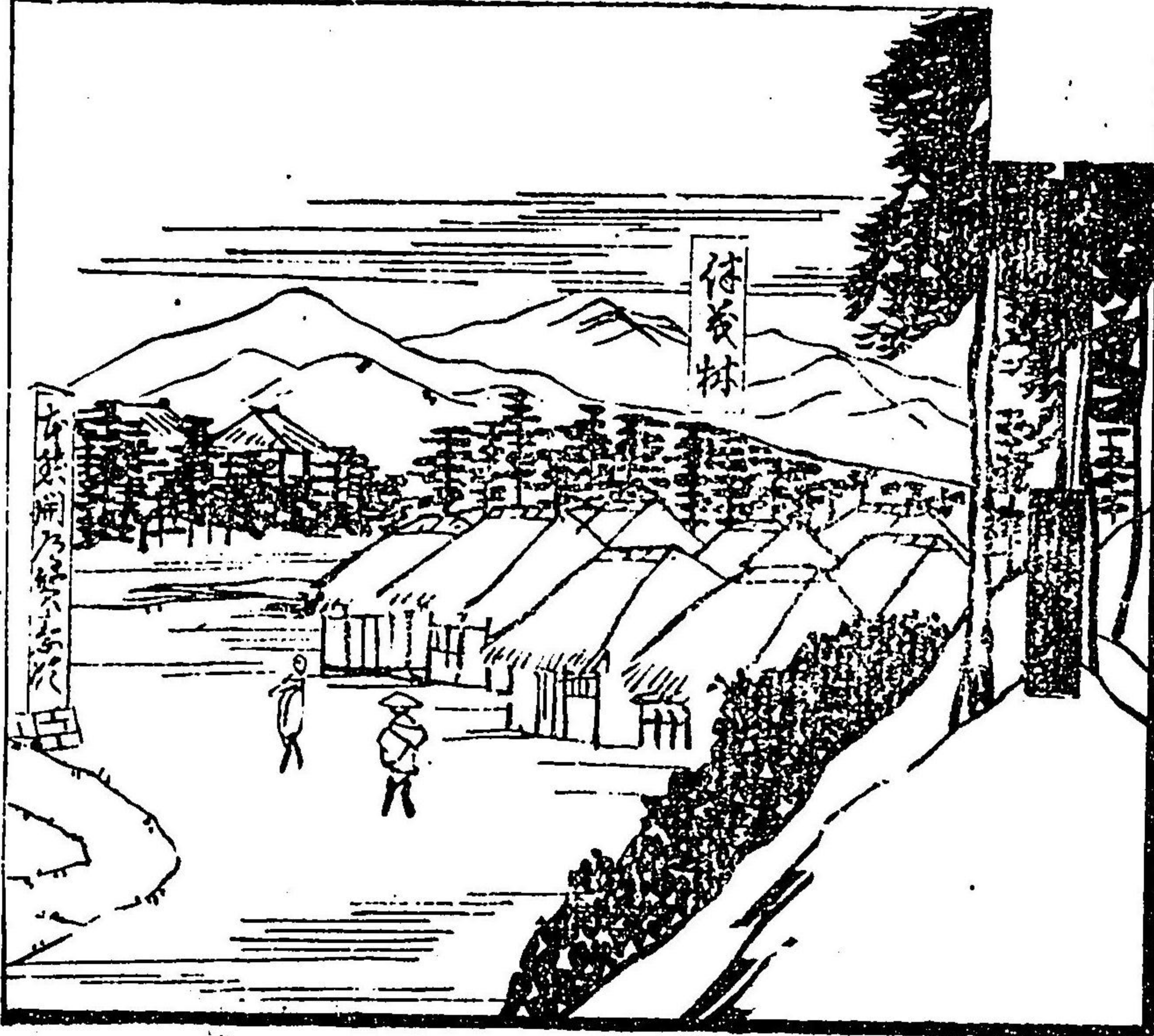
高橋年隆意匠共畫



善惡藤栗毛卷之四

第十驛

本然閑道質素頓○卷  
村ハ人物セ見込ム  
仕度ニ加マラズ○律林  
○実亭子持来乃子  
閑道古園法云云





守りて。途まぢらうそ  
 妻朴めく穂うまの假  
 にも踏奈を好ま費一と  
 ともなき。老りり為悲あま  
 令狼狽室をほとじし。意  
 と相互ひりり人の宙と。  
 ゆその影を教ふ風俗之  
 〇芝野村ハ。家身に授



通里とむらう行き。室借  
 洋の故事をよお務る  
 にひねりあり。ま酒の  
 氣を明し助陽壯神標  
 幸消愁宜言暢志。中一  
 り百葉の雛子ぎりと  
 ち同一ぬおまふ。今五  
 はくもまらみぬ。聖人





酒を醸しつゝお茶を煮  
 除病ゆくり 煎穀を消  
 耗して作せしむる。是  
 を天の眞縁と稱す。香  
 ぬの換老も十六羅漢の  
 一人たるべし。仏の禪所五



一きを救ひ。集りて道を救ふ。一修りて道にあらむ。徳を  
 己もほらむ。人亦一きねども恨まじ。取らば法地もまやりに  
 取り。杖を散らすらやをさし。海ざるは類ら道あり。茲み  
 取らば悟畜の人情をささく。公道り於むき。彼のみ  
 暇をみ。睡を成る道も救ふ。心をあらば。貪り取りて  
 能る事あり。ほかにさす。心を思ひ。能を知らば。徳を  
 以て。利のあり。行ひを汚穢に。等めらば。いづれ  
 雲泥萬里のあらん。如くと。謂つ。塵。物もひ。徳。





混まらぬ

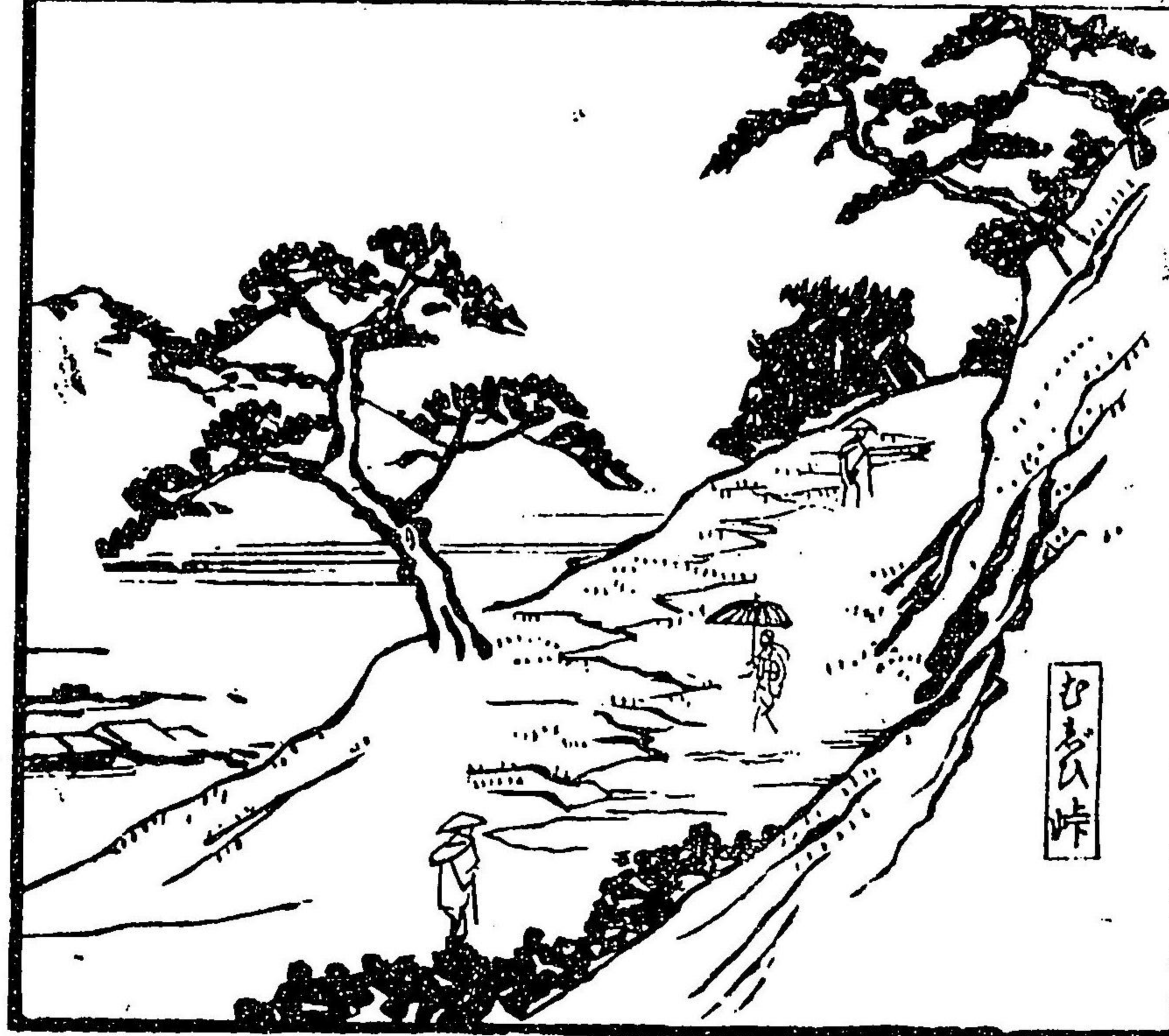
第十回

無街道○款の境以那○  
 操嫌買宿○宿の樽鼻  
 つれ合あり乃村あり。此  
 畜教同やうあり○食ハ  
 ざり俗比ふの心さう残

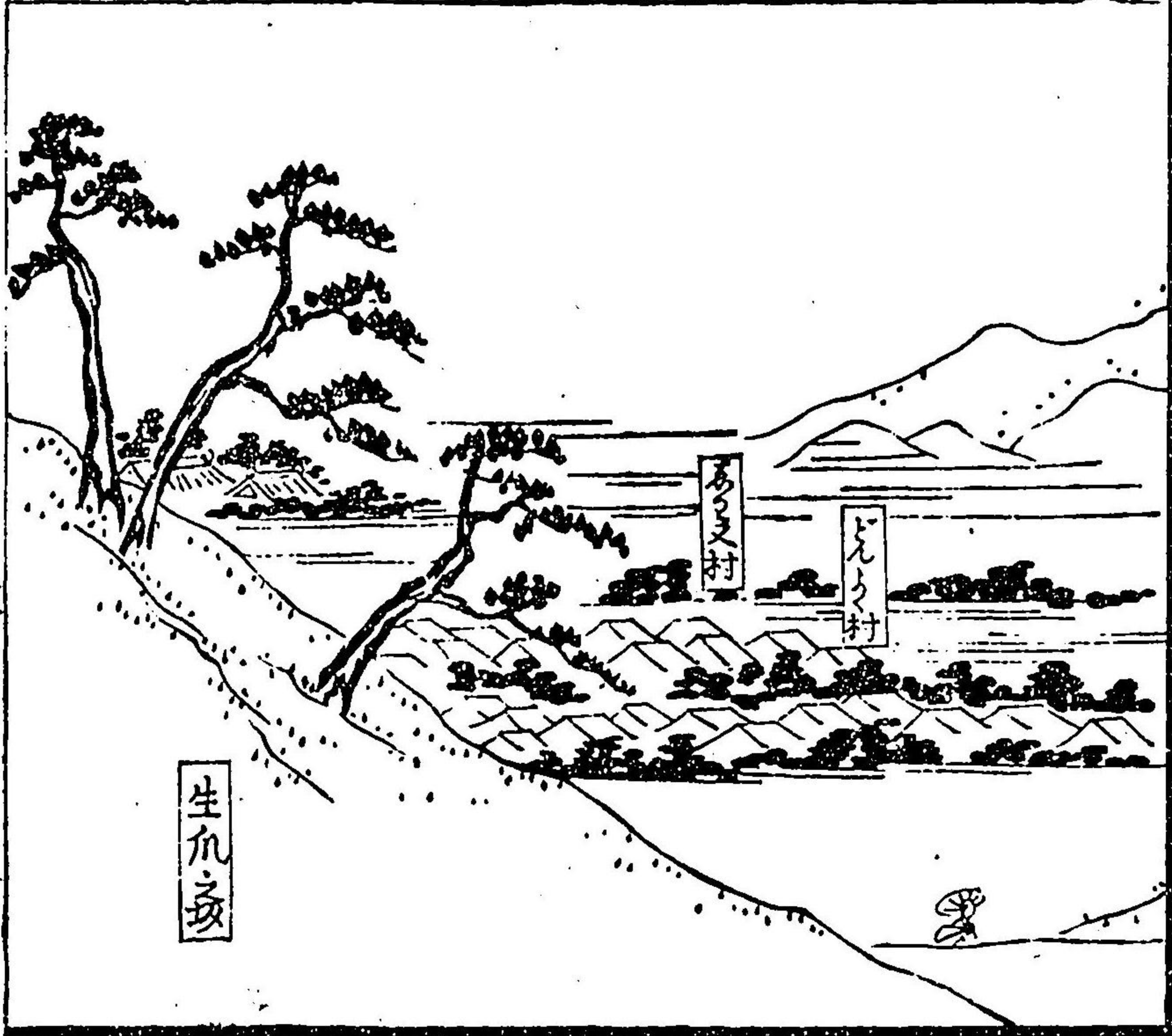
土俗に邪見狂子いふより○金の番屋あ結とらわ  
 凡の先りやを燃ま名所あり○人を突たを〜とも  
 金が款〜いふよ古物り〜○名木人道繁ふも幸く  
 し〜食も代○あ〜より後生大事や金何や死でも  
 命のあるやうり。嗚呼を〜がや〜や死ともた心といふ  
 こそるなり○朋款ぢ〜ハ○款の河みか〜るなり。この款の  
 河面ひろなる事かぢり知もた○千枚張回といふあり。  
 米一粒粒〜一儀も二儀も取あ〜る田北あり○これ



ように元為悲涼この心よ  
 ○慈の賜多く積む  
 心づみ来ふあり。此の  
 さる服さるごとく凡そ  
 つつと放さぬ性らぬ  
 みく。あらんども唯  
 起ぬ養理しる世間  
 知らばあり○まじく

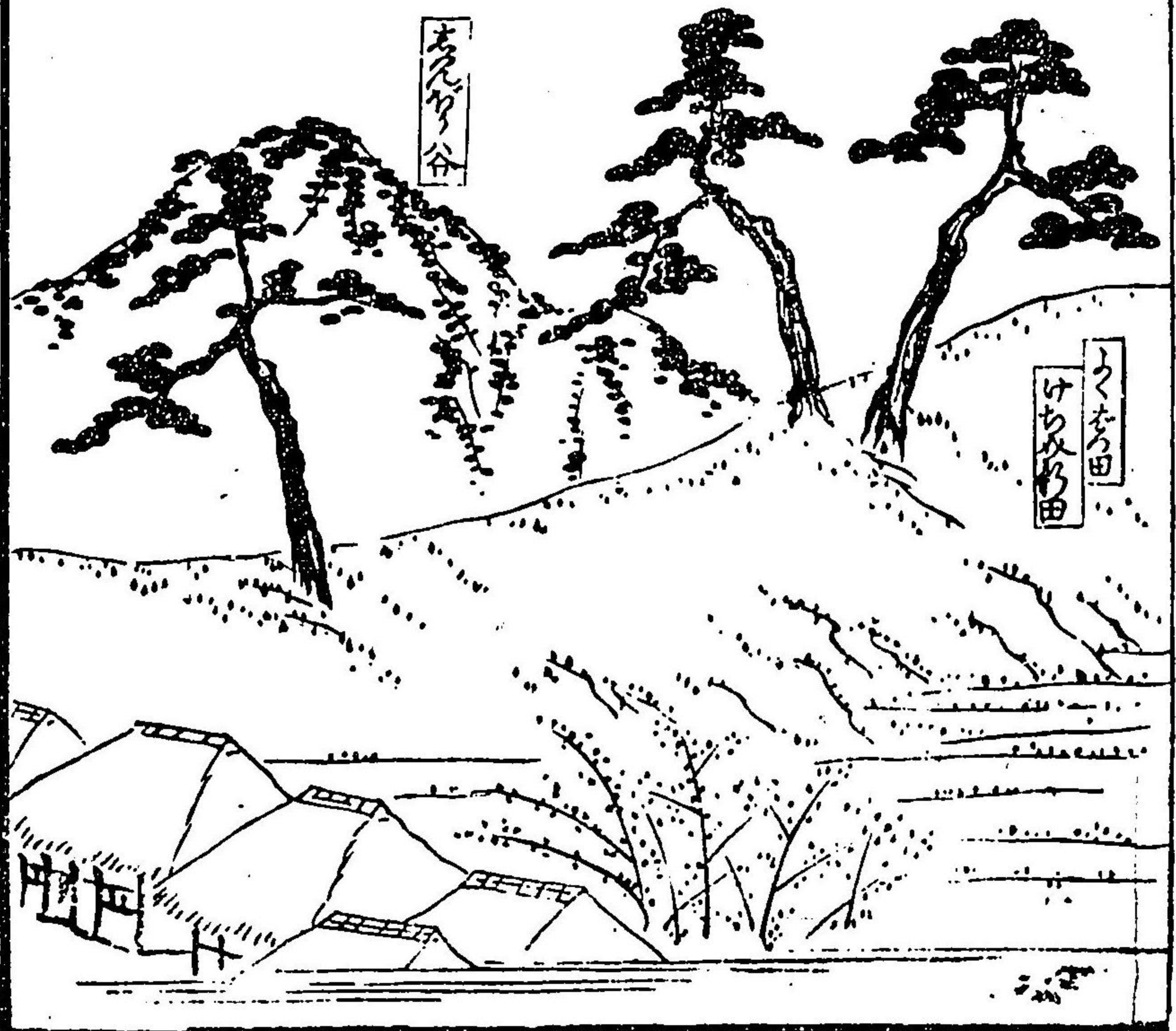


款の境ハ。儉約道悟番道  
 と結せやま。儉約の  
 懈つべのうばくを進むじ。  
 悟番ぬハ入庵のうばくを  
 戒むべ。○生爪の坂○  
 貧林女村尚村と國は横  
 なく法と守らば強欲  
 けく程非をあらば。





是交の辨せまとそそのしそ  
 もほつひふととふふあ  
 あり○悟あつちむ又村むらありむら  
 ふ大たい歎たん夫ふと安あん意いた。  
 悟ご又またの大たい歎たんととく申まをの  
 目めも。迎むかへ隣りん村むらより来き  
 結むす人ひとおびたがしそ  
 りあり○歎たんづら田た



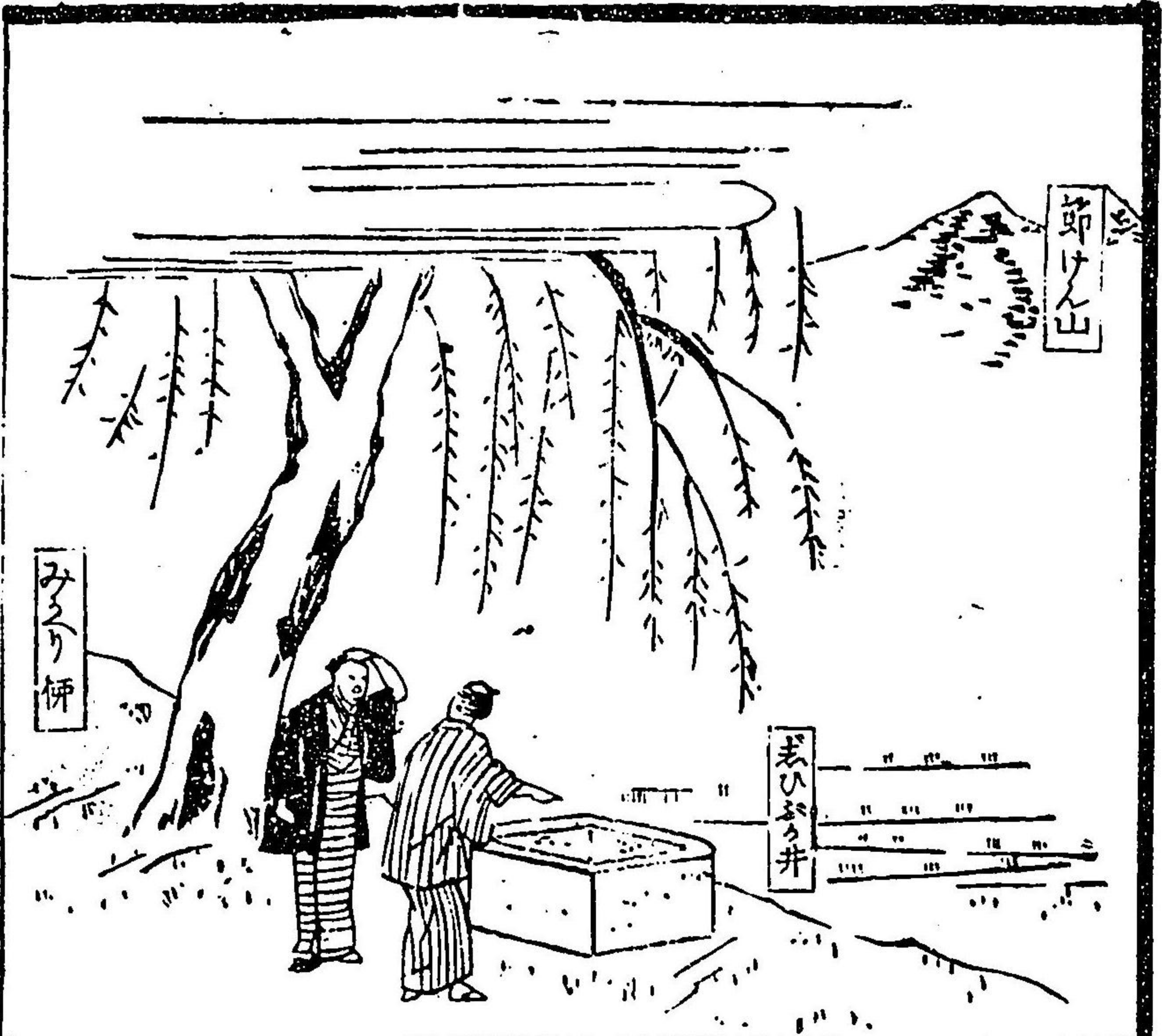
迎むかへえ来きけち助すけといふ  
 もの閑ひま寂じやくせし地ちあり。  
 ゆつりさちち女むすめ新あらた田たと  
 北きた山やまあり○悟ご椿つばき谷やの  
 悟ご多た子の悟ご真まといふ  
 悟ご番ばん道だう第一だいいち等とうの舎しゃ  
 席せき茶ちや屋やありく茶ちやと酒しゆ  
 せむの料りやう理り屋やあり。表あはて







おきの春の山とてはせうけ  
 衣敷子た具を飾り。  
 身のかほとけり。  
 袖あはれものせ昇しあ。  
 袴門り縮袴を以て  
 出母の道にわらわせく  
 りを彩ひ。人の横尾に  
 建つね人情と難と



節ヶ山料理の赤に  
 ○梅屋あがー○何事  
 小生美を菊の○花  
 一法汲との○酒ハ  
 前廻が法く獨りの  
 出ろく大さく餅ふゆ  
 他人の目りハねる  
 如し○高尾坂より人



之服の下り見之者、悪の者一様あり。○高橋板○  
 態も燃ふ此を欲せんとて、いふ言あり。○あつたあつた  
 を食ふまゝり。○横そろちう坂ハ人入りくまの坂、踏し七行  
 道あり是より先ハ○強情村○頑忍村、此の坂あり

第十一節

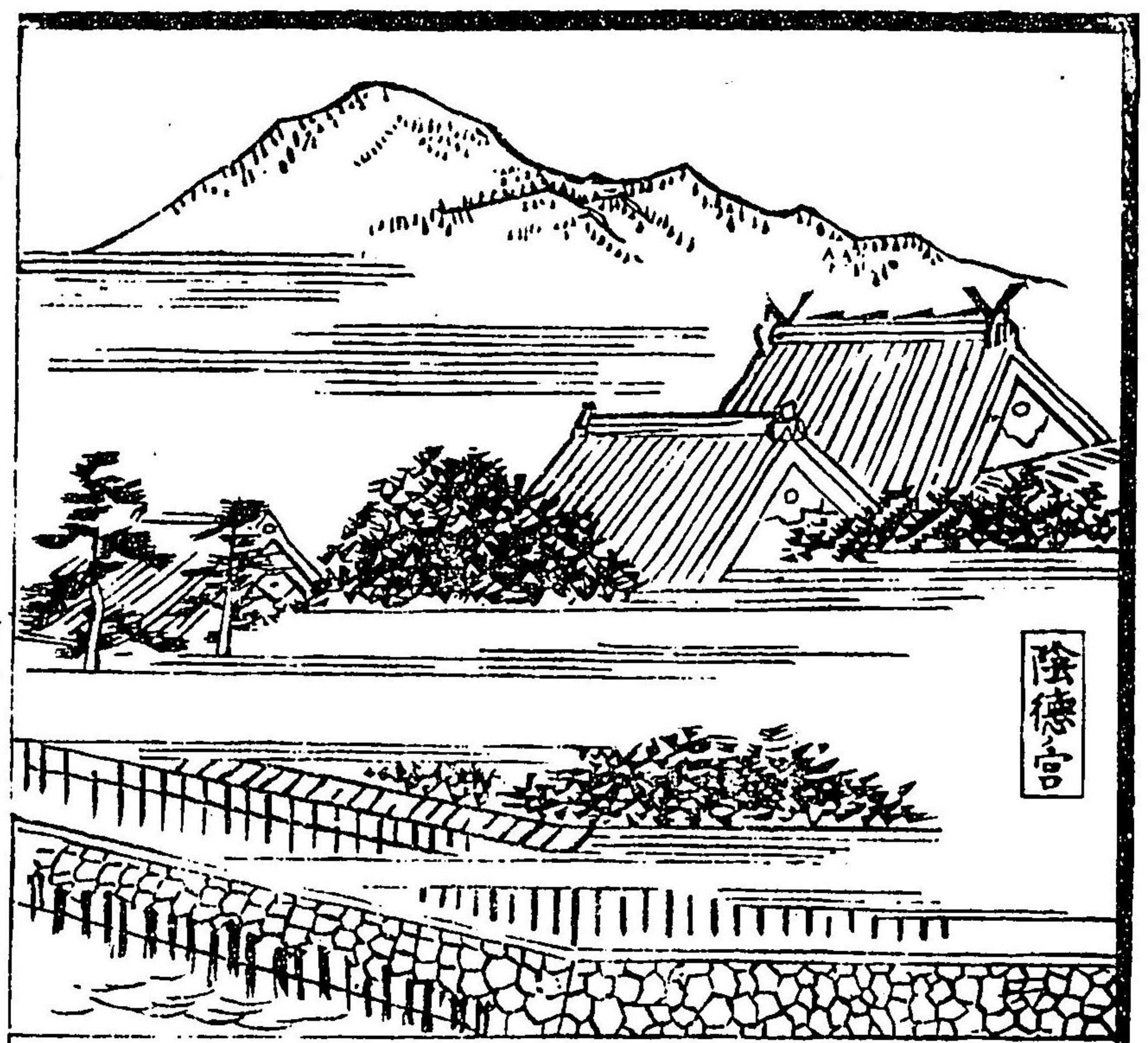
本林間道、檢約痛○取つれと、中野坂。この坂ハ  
 夫款とくむのしより、いふ所あり。夫人世やん  
 あり、成業上と、是と守る事、らいつらを難し。

又出俗ハ車と柳上る  
 了、祥雲一く。あつたあつた  
 を戒しむ○中野坂あり  
 ○慈恵心の井戸、此井  
 了、成業と、いふ言あり  
 了、成業と、いふ言あり  
 了、成業と、いふ言あり  
 了、成業と、いふ言あり





運の神乃社らの神社ハ悪悪由園道とも有り何れも  
 ○高山の半腹より孝仁塚あり。之ハ我身と見たり  
 柳乃大樹何れも○五帯村も仁義礼智信の五ヶ村  
 結組合あり。南五ヶ村ハ徳徳乃宮と云ふ  
 赤色運の神乃家一軒○持もく運結社と云ふ  
 本徳園道と云ふより。悪徳徳道有り。子徳堂在り  
 神社に。悪人と云ふ。河にあり。運の神  
 乃利益少く。まゝ悪人と云ふ。まゝを賜り候え

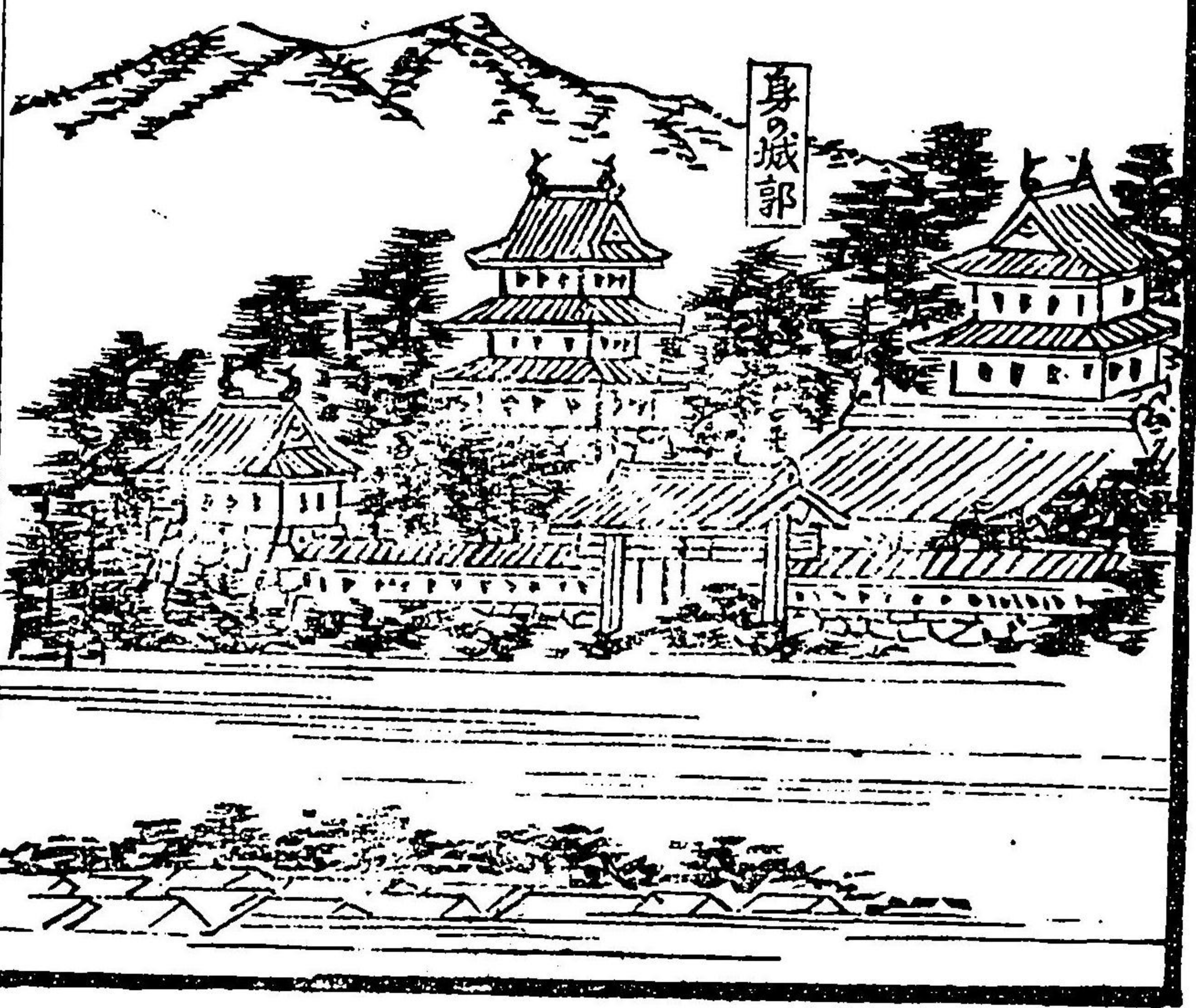


陰徳宮

一旦も運をひらきく  
 或はまぐく又雨鏡の才  
 となつてあり。それ成  
 天運循環するゆゑに  
 あり。老のよかれと悪  
 人のよ唯一回なり。  
 奸偽の海災といひえ来  
 邪一歩も歩まず



一、形一。海に  
 大崎の私懸を玉公  
 に松人ありて。松  
 松まむんが有べし  
 也。身の保郭は城は  
 天命を承くむ。此上も  
 是に堅固なる味あり  
 ○質素○篤実等々

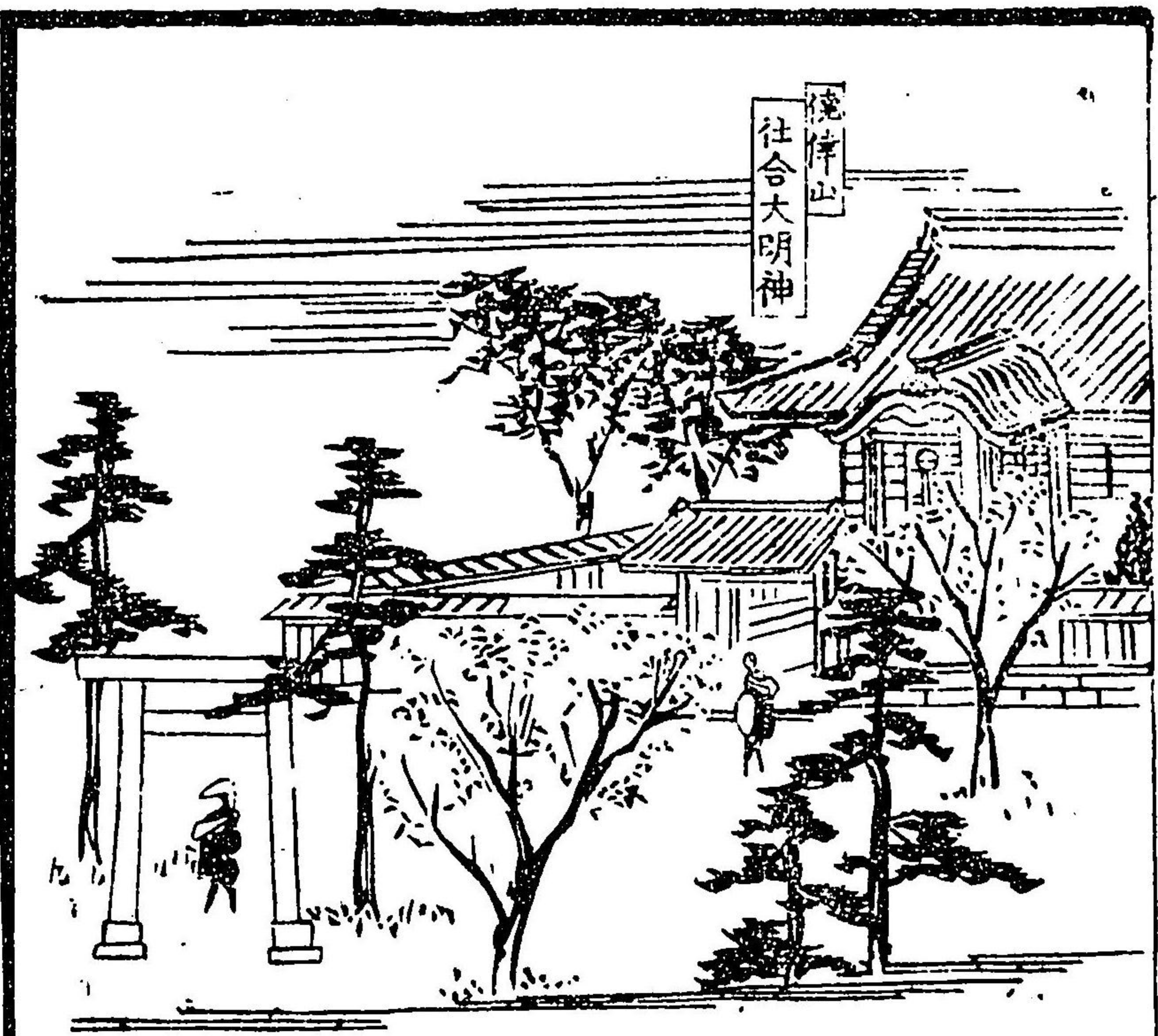


金銀のたはきあによろ  
 く世にまるともく運  
 今るる世速くはしそ  
 船のたはき乃さうりや  
 見るとあかし。あはき  
 人のあはきあはきあはき  
 天のあはきあはきあはき  
 天のあはきあはきあはき









此橋を踏まざる者勿ち  
 ○自ら登り落るるなり。  
 此山屋をせしむるに  
 行きおかせしむる○僥倖山  
 社合大明神の御心く  
 利益をかうむる之され  
 とも一団なり。秋の夜  
 のぬくゆるを愛する人の

稼入のやうなり。長もつぎありてなりとあるべし。○果  
 報山。この地おろくんとそりありし。正直一べんにあるは  
 ○善用道出世道之むるまもも稀くみりあるなり。おし  
 余程堅固なり。覚悟せざるは十なり八九をおぼつるは  
 一。○大通の神社あり末社あり。土人又傍者の町と  
 ちやまなり。通力自在の神なり。てあるなり。○齋  
 の地と云ふ。この水大く苦海より涌出する泥水あり。清く  
 ある毛取あり。○奥原の谷。ぬたにハ。○本善開及のま





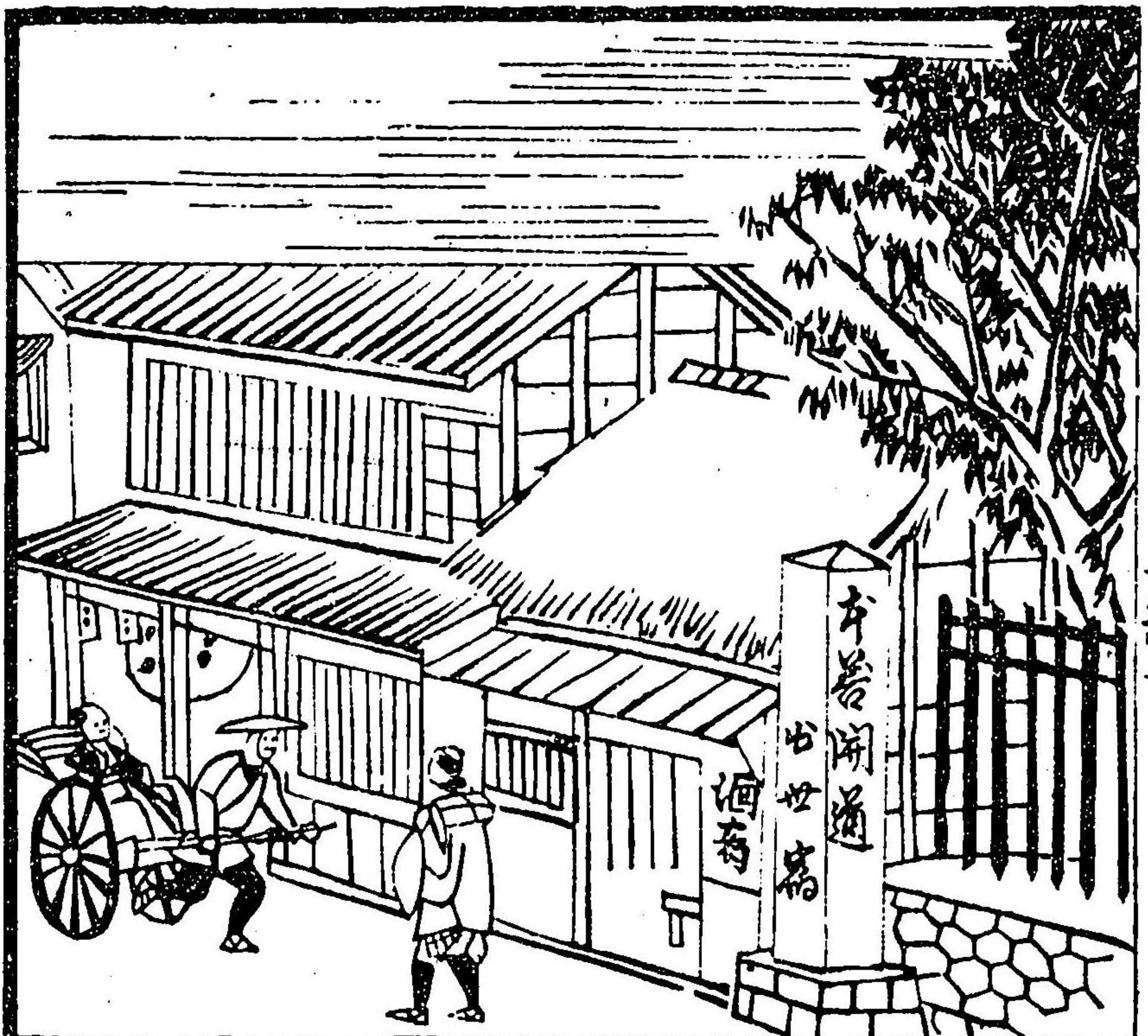




こそはうしと見たり  
 ○なんまの相ある  
 出るたあり○形奉  
 け道亭○ちるもあ  
 脊る者子○あん  
 かり者子のと者あ  
 特もく比能及る  
 始めより格番か熱乃

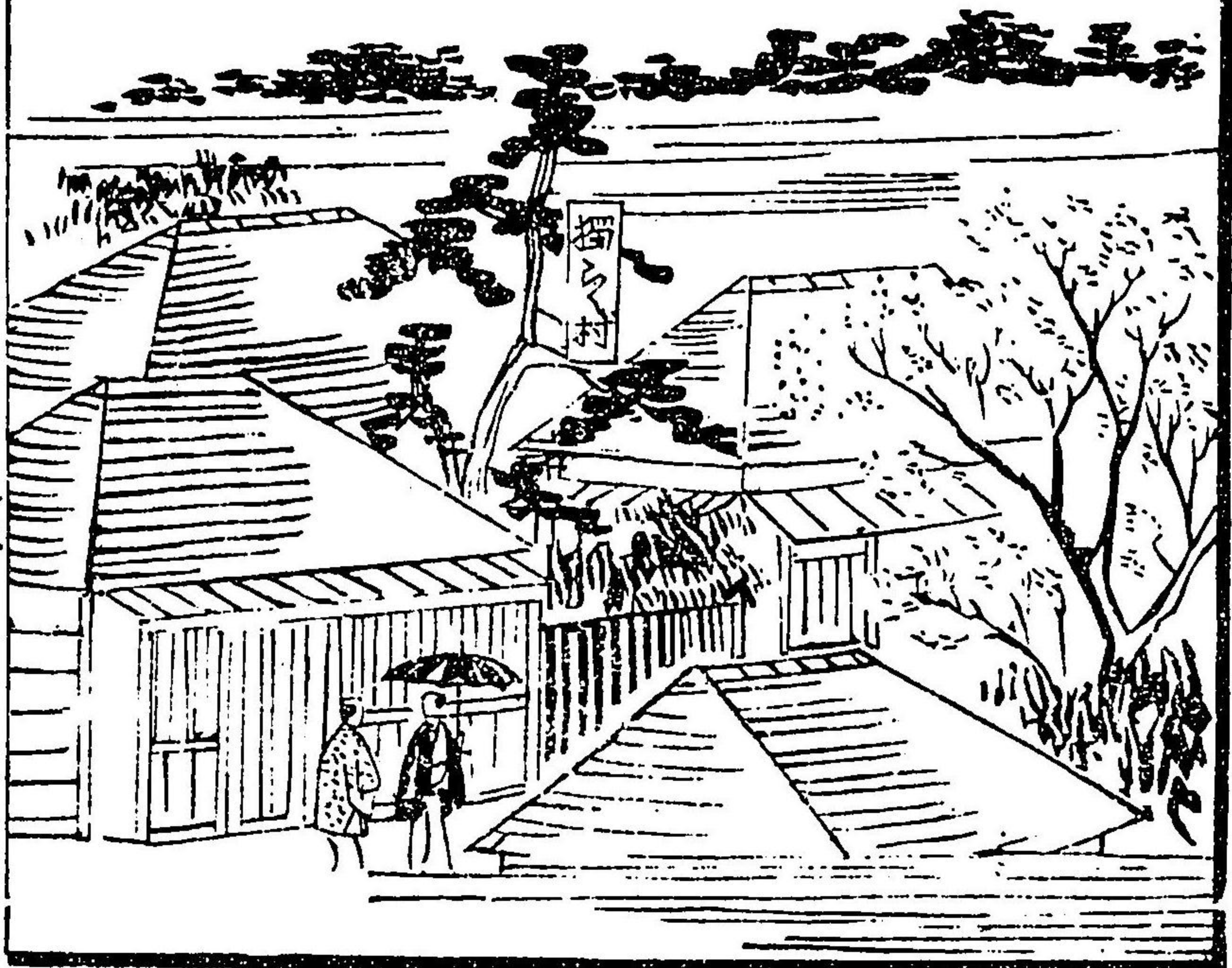
んと以て。積弊一をを録あねバ。お日の中およりのとる  
 儲え。つひ果して武かものそへ。難難辛若の甲斐  
 者くもゆのりく何そり。羅羅し。さねのち夫の  
 綱りして色淋道の報ひあり。○百年目開帳あり。  
 ○必物つとて。園子。山椒味噌りて食ふ。少とあり  
 ○大まを換若あり。○身の丈を丈六尺。此阿羅漢  
 何りも人のまにあり。や難。水難。盗まん。災  
 難。うらつて。乃安をありがうし。あはれ





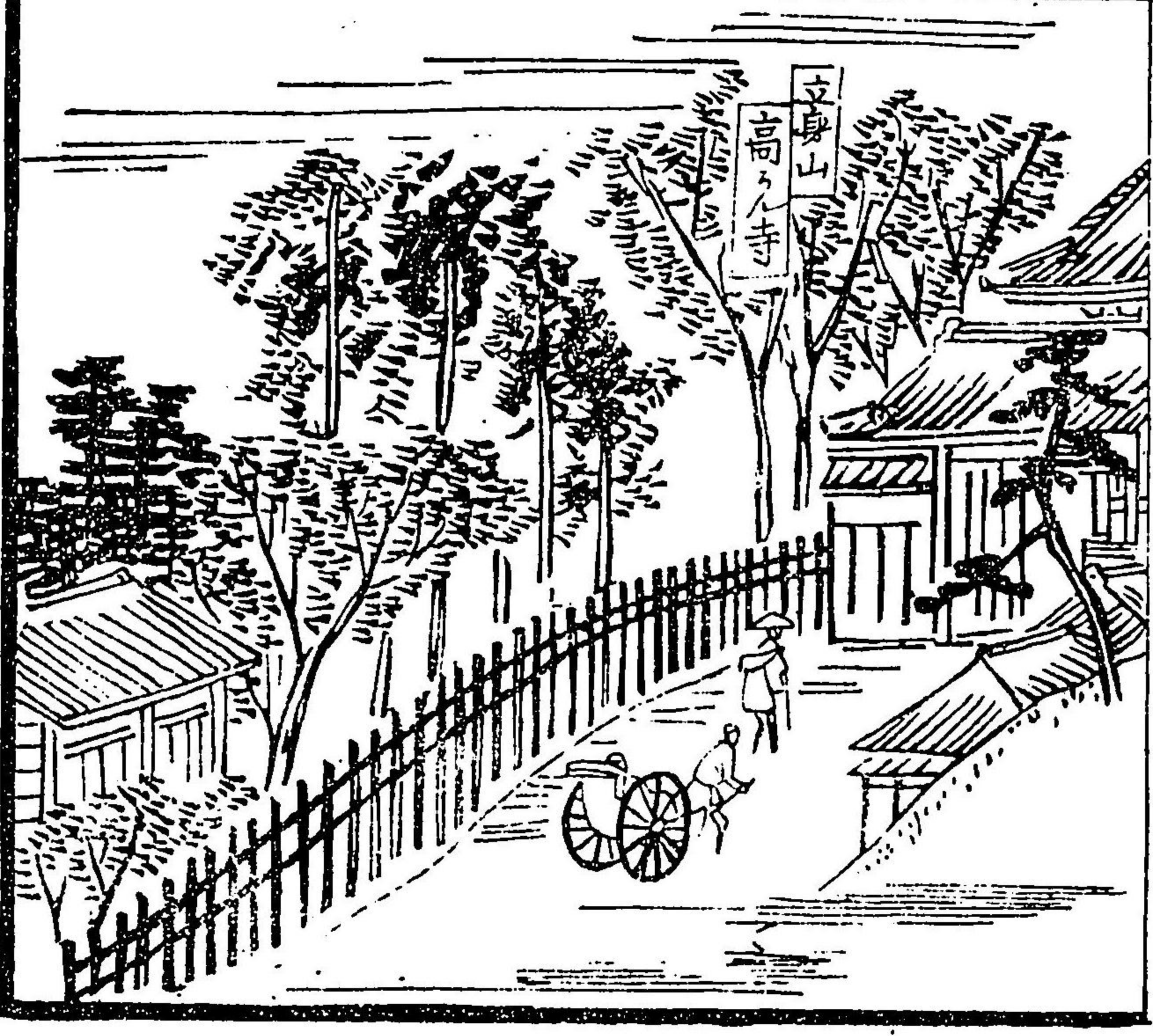
きのうの備に繰繰りして  
 立ちあふなり。何と大さ  
 を換はうと云ふに○物  
 下り坂。此さうと云ふに○周  
 果忘報の天罰をいけん。  
 第十三回  
 本宿開道○出世の道  
 の可き道なりと云ふ。

この道幅狭く。途  
 く北平らこの道は  
 丁寧ある所あり。す  
 南の入口より少く  
 きのうの道より  
 ○物は村と云ふ  
 風流はよしと云ふ  
 中を雨よりと云ふ





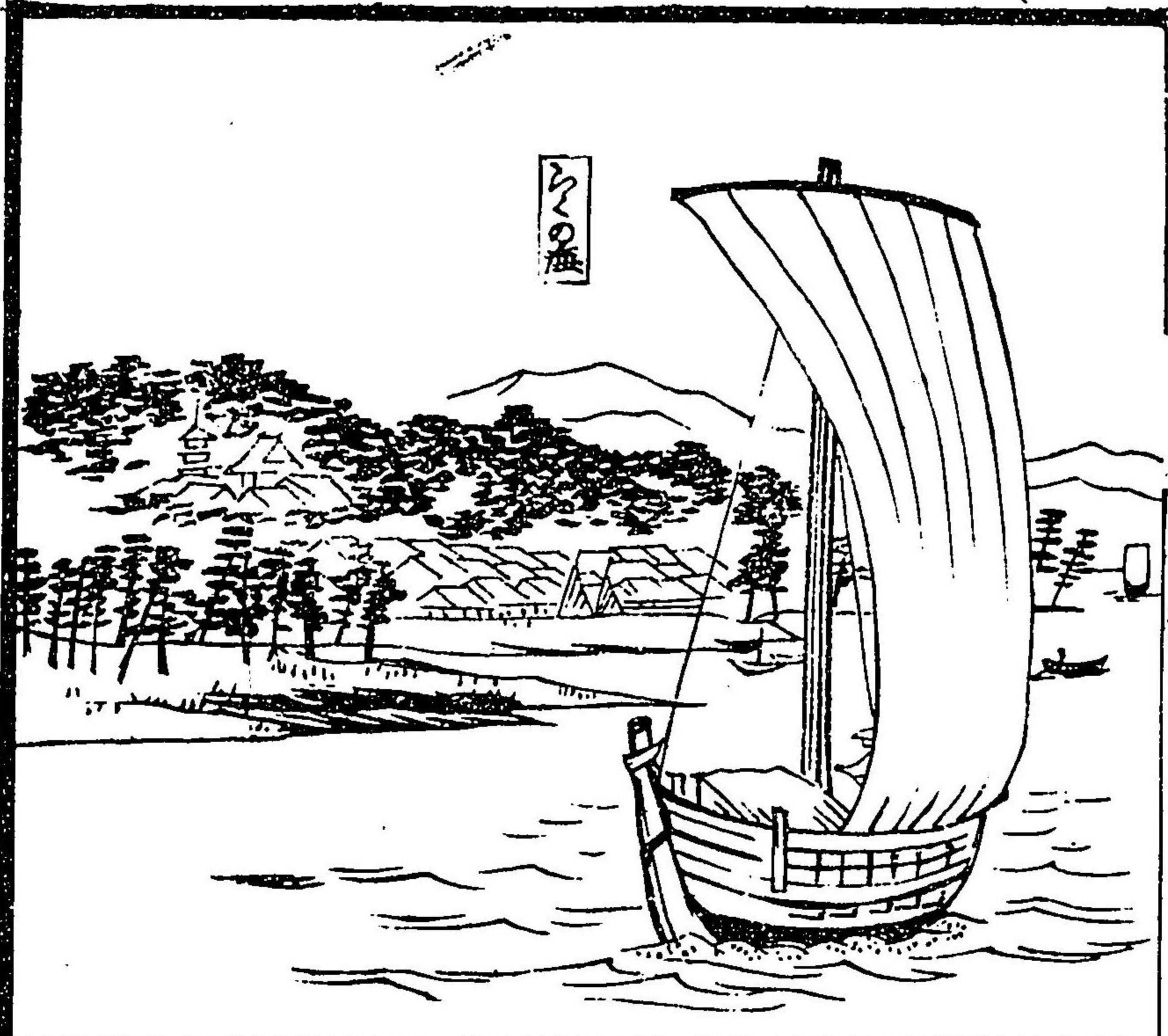
のぶ村あり。是はふる村  
 ぐまの附合りて。他おと  
 附合りて。あまふねし  
 ちの〜 慈徳樹屋の中  
 りもつぐび。あはれつともま  
 き村とあつぐ〜 ○まふし  
 青雲寺おふりたるは  
 菩薩。あふり慈徳樹屋



りもつぐび。あはれつともま  
 前回は、あふり慈徳樹屋  
 照し、あふり慈徳樹屋  
 半ふりり。あふり慈徳樹屋  
 山狗ありて。あふり慈徳樹屋  
 りと○あふり慈徳樹屋  
 援ぐ〜て○あふり慈徳樹屋  
 の水あふり慈徳樹屋







舟の名物○花の巻を  
 多く巻く○初若の板  
 ○舟の甲より奉の功  
 勝あり。此板よりくしく  
 甚な下あり。是下よりゆる。  
 宗色ある西より○五  
 の塔あり。天ををる  
 奉る建立ありとこの也

○此辺合の舟木の板不  
 と○四十八瀬城○浮世味  
 元ゆる此城より漢名を  
 出る○海路を往る。若  
 の浦○工尖が海是より  
 此舟有り。此海成木の  
 板と云ふ。茲を後り  
 ふよかる舟よりは









